

宇宙特急便



転禍為福 肺炎・怪我・急病騒動始末

交通安全ばかりに目が行くが健康と作業の安全もおろそかにできない。一か月余りの間に労災事故や病気が悪夢のように続いている。S君の肉離れと部長の肺炎発症、そしてO君の急病にH君の荷台転落、後の3人は一歩違えば惨事になったかもしれない。

騒動前、昨年来の感謝と新年度にあたり寒川神社参拝。同行した坂中部長。最初は風邪と軽くみた。しかしなかなか熱が引かず町医者を転々と。結局大病院で肺炎と診断されてから約2週間ぶりの復帰。慣れ、体力過信、運動不足や加齢のリスクを見誤った。会社の安全管理体制に甘さがあった。申し訳ない。一方、各部署のスタッフの緊密で冷静な協力体制には頭が下がります。これらアクシデントを改革と結束の契機としなければ。

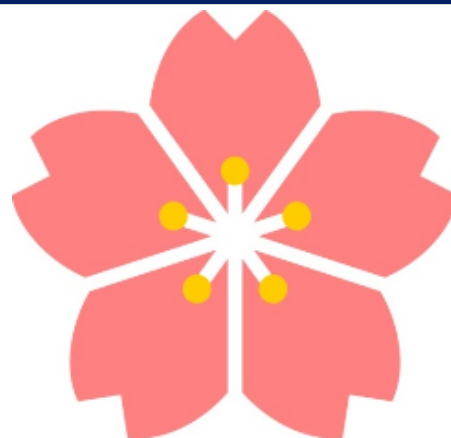
春爛漫 咲くも散るも あなあわれ

風にちる 花のゆくえは

知らねども惜しむ心は

身にとまりけり

(西行法師)



サン・高橋さん 送別の辞

給食食材物流の担当者。およそ12年の付き合いになる。高橋さんは何事も向き合い、話し合いを大事にする人だ。昼休み、自家用車の中で本を読みくつろぐ高橋さん。本で自分の世界を表現してみたい…見果てぬ心の内が言葉の端に垣間見えたことも。取引先スタッフにニックネームをつけて得々としている高橋さん。あるとき言い合いになったこともあった。お互い仕事思うように回らずクサクサしていたのだ。そのうち膝を突き合わせいつものように話し込んだものだ。持ちつ持たれつの感もあったろう。むしろ助けられた部分が大きいかもしれない。実績と管理に追われる中この度還暦を迎えた。再雇用の道を辞退し数年前他界した御両親の墓のある函館の実家に隠棲する。北陸育ちの奥様とともに故郷で穏やかな時間を過ごせませう祈っています。長い間ありがとうございます。お疲れ様でした。

今月のひとこと

幼い頃出来なかった事が成長を重ねてできるようになる。大人になり他人や外的環境のせいにするのは自らの成長のきっかけを壊していることに気付くべきだ。幼い頃、外的要因のせいにして日々成長していただろうか。

